

C-72 日本人青年女子の肌の季節の変化について第6報 高知地区における
東京家政大家政 木曾山かね 岡山県立短大 ○古元千鶴子

目的 本研究は、皮膚の色調と衣服の色彩との関係を考えるための、系統的な基礎資料を得る目的を持った基礎実験研究である。第21回総会に東京地区を報告し、その後名古屋地区、北海道札幌地区、岡山地区、山形新潟地区の色調について報告したが、今回は高知地区における四季の皮膚の色を測定し、考察検討を行なった。

方法 測定の方法は、視感測定法で行なった。測定時期は、春は1974年4月中旬、室温20℃内外、湿度54%、夏は1973年5月中旬、室温23℃、湿度66.5%、秋は1973年11月中旬、室温19℃、湿度66%、冬は1974年2月初旬、室温10℃、湿度70%であって皮膚面の照度は、450 lx内外であった。人員は高知市高知学園短大生1、2年95名である。被験者の年齢と割合は、18才32.7%、19才53.1%、20才21才22才が14.2%である。被験者の皮膚は、化粧をしない健康な皮膚を測定した。被験者の着衣状況は、通学時は制服を着用した。衾は明の大きくない丸衾、袖は夏期は半袖を着用した。家庭の職業は農業24.5%、商業、会社員、公務員を含めて75.5%であった。

結果 顔部および前腕外側などでは、春は相当に小麦色系統の2.5YR $\frac{7}{4}$ などがみられるが、夏になると、大方が5.0YR $\frac{7}{4}$ などのオレンジ系の色調がみられるようになる。上腕内側は、春より夏が2.5YRの出現率が最も高くなり、胸骨部もやや近似した傾向を示している。これと比較的日焼けの少ない上腕内側や胸骨部などは、春の色調の明度は非常に高く、彩度の低い色白の色調が多くみうけられた。